

レーシングペーパーがよい)

(b) 間接描画法

・コロンペーパー(転写紙)に描画し、版に写しとる。(子どもの「うつけ絵」あそびの要領で、版面に水をひき、描画面をふせ、その上に新聞紙をのせ、プレス機にかけ版面に密着させる。コロンペーパーの裏面に水分を与え、プレス機に数回かけ転写する。コロンペーパーは半透明の薄い紙に糊を塗布したものである)

(4) 確実な版づくりのため「製版」をする。(「チンクター返し」)

・クレヨンなどの描画材がアラビアゴム液の塗布により、版として成立したのであるが、インク盛り、プレス機の圧力などに「版」は不安定である。特にクレヨンは、版面の凸部に付着しているため剝離が心配である。そのため描画材と盛りかえする。(野球ゲームのリリーフ投手の役割りと同じであり、主成分はアスファルト・ピッチである) 次の三つの方法がある。

(a) 湿式法

⑦ 版面にアラビアゴム液を塗る。バット処理(硝酸塗布)の版面がアラビアゴム液により、描画面の脂肪と化合、他の部分は硝酸と化合する。描画面は親油性、水分の反発。他の部分は保水性が増大する。

① 版面のアラビアゴム液を水で

洗いおとす。

⑦ 揮発油をかけ、描画材を洗いおとし、絶えず水を版面に与えながら、布でチンクターをすりこむ。

揮発油で洗いおとすと、描画面は消えるが、チンクターをすり込むと描画面はセピア色に再現する水分がないと、描画面以外にもチンクターが付着する。

⑤ 製版インクを盛る。

版面に水分を与えながら、ローに少しずつ均一にインクをつけ多少力を入れ、多方向から転がす。(製版インクは、黒色で製版墨ともいう「刷りインク」にくらべ顔料の粒子が細かく、粘性も強い版を確認する意図もある。乾きにくいので版の保存にも使用する)

④ 版の汚れ、描画面の不用部分を除去する。

浮石棒、砂ケシゴムで消す。加筆は困難であり、描画面の段階が大切である。

(b) 乾式法

⑦ アラビアゴム液を塗る。

① 揮発油で描画面を洗いおとす。他の部分はアラビアゴムが保護している。(水分のない布使用)

⑦ チンクターをすりこむ。

④ 水洗いにより、アラビアゴム膜を洗いおとす。(油脂分のついていないスポンジ使用)

⑤ 版面に水分を保たせ、揮発油で「製版インク」を拭きとる。

(c) 中間型法

④ 湿式法の⑤⑦⑧に同じ。

この方法が安全で失敗も少ない。

⑦ アラビアゴム液を塗る。

① アラビアゴム膜を水で洗い落とす。

⑦ 再度アラビアゴム液を塗り、乾かないうちに、乾いた布で描画面を「から拭き」する。

描画面はアラビアゴム液をはじくが、細かい描画は、ゴム膜に覆われたり、ゴム液の粘性が強く、描画面に付着することもある。

⑤ 版面に揮発油をかけ、乾いた布で描画面を拭きとる。

④ チンクターをすりこむ。

④ 版面を水洗いし、アラビアゴム膜を除去する。

⑤ 版に水分を与え製版インクを盛る。

⑦ 版の汚れの除去。

⑦ アラビアゴム液を塗る。

※ 三つの方法とも「アラビアゴム液」「水」「チンクター」のそれぞれ

の性質を理解していることが大切である。専門的には、多くの枚数を刷るなど、より安定した「版づくり」のため回数製版を繰り返す。

エッチングプレス機で刷る。

⑦ 版面のアラビアゴム膜を水で洗いおとす。

① 版面に水分を保たせ、揮発油で「製版インク」を拭きとる。

⑦ 水を含んだスポンジで版面を湿ら

し、準備した「刷りインク」をローで盛る。

⑤ 製版インクを盛る要領と同じ。

⑤ プレス機に版面を上にしてのせる。

④ 紙をのせ、あて紙をのせる。

⑦ プレス機の圧力を確かめ、プレス機を通す。

⑦ エッチングより圧力はやや弱めでよい。

⑦ 一、二枚は、版とインクなじみがよくないこともある。

⑦ インクの付着が過多であったり、版面の水分が多すぎると、なじみ「泣く」が刷りに生じることがある。

四、研究のまとめ

いわき地区高校教員六名で研究をすすめ、県教育センターでの研修の延長として、「身近なもの」を利用した「リトグラフ」、教材化の方法など探ってきた。最も原始的な技法が最も進歩した形となったのが「リトグラフ」であることに改めて感心し、表現の方法(描画の技法は紙面の関係から省略)に無限の可能性を秘めた技法であることも、グループ研究を通し学ぶことができた。

これまで他の版画(版種)にくらべ実技教材として難があつたが、今後、おおいにとり上げられるべき教材であると考える。